

令和3年8月25日（水）

第71次印旛地区教育研究集会  
技術・家庭科分科会

## 研究主題

技術・家庭科における日本の生活文化や伝統の大切さに  
気づかせる学習指導の工夫



第一部会技術・家庭科研究部

成田市立吾妻中学校 大西香菜子  
佐倉市立臼井中学校 田島友里

本提案は、平成30年度～令和元年度の実践をもとにまとめたため、以下の点についてご理解をいただきたい。

- 本年度から施行の学習指導要領に準拠して指導案等は書き換えたが、一部表記は提案の趣旨を尊重し「新学習指導要領」のままとした。
- 令和2年3月からの休校のため、対象となる生徒に対して、まとめの学習や事後のアンケートをとることができなかった。そのため、明確な<成果と課題>が示すことができない実践もあった。

## 1. 研究主題

技術・家庭科における日本の生活文化や伝統の大切さに気づかせる学習指導の工夫

## 2. 研究主題について

### (1) 学習指導要領から

新学習指導要領の家庭分野の目標として『(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う』ことを掲げている。この『実践的な態度』には、家族や地域の人々と協働する態度だけでなく、日本の生活文化を継承しようとする態度なども含まれている。さらに、内容の取扱い(3)内容の「B衣食住の生活」については、『A 日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化を継承する大切さに気付くことができるよう配慮すること』とあり、内容項目にも『B衣食住の生活(3) A(エ) 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理』が加わるなど、伝統文化を継承し、異なる文化をもつ人々と、ともにより豊かに生きていく社会を築いていくことのできる生徒を育成することの重要さがわかる。

### (2) 社会的背景

近年のグローバル化、日常生活のニーズの変化、IT 技術の発達などは、アイデアや知識、人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。また、日本を離れて国際社会の中で暮らしたり働いたりすることも増えてきている。このように、国際社会に出ていけば出ていくほど、日本の良さを意識する機会が増えるであろう。更に、国際社会の中で日本の良さを広めようとしたり、地位を高めようとしたりするなどの機会も増えてきている。これからの時代には、国際社会の一員として、郷土や日本の「伝統と文化」を大切にすることを育むことが重要であると考えた。新学習指導要領でも生活文化の継承と創造に関する教育の充実についての記述が、以前よりも一層明確に示されている。

家族・家庭や地域における、日本の生活文化を継承する機能などへの理解を深めることで、多角的な視点から物事を捉え、自立し共に生きる生活を創造し、よりよい生活を実現することにつなげ、技術・家庭科のねらいに一層迫ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

### (3) 地域・生徒の実態

佐倉市・酒々井町からなる第1部会は、中学校12校、小学校25校から構成される。古くからの農村地域も含まれるが、JRや京成電鉄などの交通機関が整備され、地域を東西へと横断できることなど、比較的交通の便が良く、東京のベッドタウンとして住みやすい地域である。また、大規模や中規模でさまざまな種類の店舗も多く、生活に不便を感じることなく生活できる地域である。

アンケート結果をみると、中学生の現在の家族形態は、核家族が8割を占めている。そのため、家には祖父母がいないため、昔ながらの生活知識を教えてもらう機会は少なくなっていると考えられる。また、日本の伝統や文化に興味がある生徒が6割を超え、伝統や文化を伝えていく必要性を感じている生徒は8割を超えたことから、日本の伝統や文化を大切にしていきたいと考えている生徒が多いことがわかった。一方、日本には年間を通して伝統や文化とされる行事があるが、3割ほどの生徒は、家庭では日本の

伝統と感ずる行事はないと答えている。その原因には、「その行事が日本のものではないと認識している」、「生活の中に伝統や文化を感じていない」ということが考えられる。

家族・家庭と子どもの成長では、伝承遊びに焦点をあてた。伝承遊びをしたことがあるかを問う質問では、ほとんどの伝承遊びを「したことがある」と回答している。また伝承遊びを教わったことがある人は、幼稚園・保育所・小学校などで教わったと答えた生徒が6割を超えており、これらの教育機関での遊びが遊びの文化の継承に大きく関わっていることがわかった。

衣食住において、最も伝統や文化を感じているのは食生活だった。食生活のなかでは、地域の郷土料理やおせちなどの行事食があり、中学生も口にする機会がある。そのため、食文化が最も生活になじんでいるのだと考えられる。日本人になじみのある食べ物（おにぎり・緑茶・漬け物・梅干し・みそ・だし）について、入手方法を聞いた。おにぎりや緑茶、漬け物に関しては、「買う（＝家で作らない）」の割合が半分以下であり、家でおにぎりを作るや漬け物をつけるという文化が少なからず残っていることがわかった。一方、梅干しやみそ、だしについては「買う」の割合が半分以上となり、家では作らないようすがうかがえた。特にだしに関しては、顆粒だしが流通しており、かつお等からだしをとるのに比べて、非常に簡便に利用することができる。「どちらも（＝家で作ることも、買うこともある）」が3割ほど存在していることから、だしを全くとらないわけではないが、普段の生活では、「だしをとる」という文化は薄れつつある可能性がある。

衣生活では、伝統や文化を感じると回答した割合が、衣食住のなかで最も低かった。普段の生活では洋服を着用することのほうが多く、和服を着用しないと答えた生徒は6割近くいた。また、着ると回答した場合でも、年に1～2回という生徒が8割を占めており、着付けをするのは家族という生徒がほとんどだった。したがって、和服は生徒の生活に浸透していないのが現状だと考えられる。

住生活では、生活文化として代表的なものに和室や畳がある。近年フローリングが浸透しており、その上に畳を敷くという家庭があるが、家に和室があるかという問いでは、9割以上の生徒が「ある」と回答している。一方、家に和室はあるが、マナーについては認識されていないようで、7割の生徒は和室のマナーは「知らない」と回答していた。

また、各校へアンケートを行ったところ、衣生活・住生活の分野で、生活文化に関わる授業を扱っている学校が少ないということが分かった。さらに、ハロウィンなど海外の文化が根付いているため、日本の文化と海外の文化との区別がついていない生徒もいる。そのため、意図的に伝統文化に関する学習を取り入れることで、伝統文化を継承し、異なる文化をもつ人々とともにより豊かに生きていく社会を築いていこうとする態度を育てたい。

### 3. 研究のねらい

家族・家庭と子どもの成長と衣・食・住などの基礎的・基本的な知識や技能を身につける指導の過程の中に、意図的に、生活文化に関する学習を取り入れることで、日本の生活文化や伝統への理解を深めさせる。さらに、家族・家庭生活の機能を通して、日本の生活文化や伝統の大切さに気付かせる。

## 4. 研究仮説

### 研究仮説1

衣食住の日本の伝統的な生活に関する学習活動を取り入れることで、自らの日常生活の中にある生活文化に気づくであろう。

アンケートでは、日本の伝統や文化に興味や関心がある生徒は6割を超えた。しかし、衣食住のそれぞれで「伝統や文化だと感じるものがありますか」という質問では、「ある」と答えた割合は、衣生活は30%であるのに対し、食生活82%、住生活75%と大きく差があった。そこで、生活文化の学習を進めていくにあたっては、家庭分野のすべての項目で扱うことが必要であろうと考えた。

### 研究仮説2

生活文化への理解を深めることで、今まで継承されてきたことの良さや継承する意味に気づき、実践しようとする意欲が高まるであろう。

日本の生活文化を授業や調べ学習などで学び、知ることでその良さや意義について理解することができると思われる。また、学んだことを今後の生活に取り入れ、生かしていこうとする意欲が高まるのではないかと考えた。

## 5. 授業実践

授業実践①（上志津中学校） 資料編13ページ 資料①（授業実践①）

A. 家族・家庭生活 題材の指導計画（18時間）

時配	主な指導内容
1	わたしの成長をたどる
1	幼児の体の発達
1	幼児の心の発達
1	幼児の心身の発達と家族の役割
1	子どもの成長と地域
1 (本時)	幼児の遊びと発達
6	幼児のおもちゃ作り
6	幼児とのふれあい

(1) 題材名 家族・家庭生活  
小題材 幼児の生活と遊び

(2) 目標

幼児にとっての遊びの特徴や意義を理解することができる。【知識・技能】

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	<p>1. 前時までの学習内容を確認する。</p> <p><b>見いだす</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習での既習事項を振り返るために掲示物を黒板に掲示する。</li> </ul>	<p>掲示物 教科書 ワークシート 新生児の人形</p>
<p>幼児の遊びの特徴や遊びの意義について考えよう</p>			
10	<p><b>自分で取り組む</b></p> <p>2. 幼い頃どんな遊びをしていたかグループで話し合いを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼い頃、どんな遊びをしていただろうか。いろいろな遊びを起想させる。</li> </ul>	<p>ホワイトボード ワークシート</p>
10	<p>3. 幼い頃の遊びの中で、どのようなことを身につけて育ててきたかを考え、幼児にとっての遊びの役割について考える。</p> <p>遊びを通して幼児はどのような能力を身につけているのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらかじめ遊びが分類できるように、遊びカードを用意しておき、遊びを種類で分類することで遊びの役割を整理するようにしたい。</li> </ul> <p>○幼児の遊びの特徴を理解している【知識・技能】(ワークシート)</p>	<p>遊びカード ワークシート</p>
20	<p><b>広げ深める</b></p> <p>4. 実際に伝承遊びを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人との関わり方も学んでいることに気づく。</li> <li>子どもの遊びを誰とどのように遊んでいるかという視点でみると、人との関わる力を発揮させていることがわかる。(イメージマップより)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊んでいた年齢や遊び方が、遊びの種類によって異なることを気づかせる。</li> <li>幼児が行う遊びという活動を通して自分の気持ちをコントロールすることも学んでいる。幼児にとって生活の中心である遊びから様々なことを学んでいることに気づかせる。</li> </ul>	<p>幼児のおもちゃ</p>
	<p><b>まとめあげる</b></p> <p>5. 子どもにとっての遊びの意味をまとめる。遊びを通して幼児は、身体的能力のほかの人と関わる力も身につけていくことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の遊びの意義について理解している。</li> </ul> <p>【知識・技能】(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児にとって遊びが重要であることを確認する。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>

5	6. 学習のまとめを確認し、次時の内容を 知る。	・次時の学習内容を予告する。	
---	-----------------------------	----------------	--

授業実践②（酒々井中学校） 資料編14ページ・資料②（授業実践②）

B. 衣食住の生活 題材の指導計画（21時間）

時配	主な指導内容
1	食事の役割
2	栄養素の働きと中学生に必要な栄養
2	食品の栄養的な特徴，1日分の献立
1	生鮮食品の選択
2	加工食品の選択
2	調理の計画
2	野菜の調理
2	肉調理
2	魚の調理
1 (本時)	地域の食材と食文化
3	行事食
1	食生活の現状と問題点，食生活と環境

(1) 題材名 衣食住の生活

小題材 地域の食材と郷土料理

(2) 目標

・地域の食文化について理解することができる。【知識・技能】

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	1. 前時の学習を振り返りながら本時の内容を確認する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見いだす</span>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域によって食文化にはどのような違いがあるか考えよう</span>		
10	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で取り組む</span> 2. 食文化について、イメージマップを作る。	・食生活の中で、文化だと感じることはどんなことか考えさせる。	ワークシート 筆記用具

10	3. 地域の特産品を考える。 ・地域で生産されている食品にはどんなものがあり、その食品がどのような料理に使われているか	・酒々井町で生産されている食材はなに か考えさせる。	テレビ パソコン
	<u>広げ深める</u>		
10	4. 千葉県にはどんな郷土料理があるか考える。	・千葉県の地形から考えさせる。	
	<u>まとめあげる</u>		
10	5. 地域によって雑煮や郷土料理が異なることの理由を考える。	・地域ごとに郷土料理が生まれたのはなぜか考えさせる。 ○地域の食文化について理解している 【知識・技能】(ワークシート)	ワークシート
5	6. 冬休みの課題として、お雑煮調べを行うことを知らせる。	・家庭で食べる雑煮の餅の形や調味料の種類を作ってくれた家族に質問しながら記入するように促す。 ・雑煮を食べない家庭の生徒は、インターネット等を利用して調べるように伝える。	

授業実践③ (臼井西中学校・根郷中学校) 資料編15, 16ページ・資料③④ (授業実践③)

B. 衣食住の生活 題材の指導計画 (2時間)

時配	主な指導内容
1 (本時①)	和服の構成と種類
1 (本時②)	浴衣の着方やたたみ方体験

(1) 題材名 衣食住の生活

小題材 衣服の構成

(2) 目標

- ・和服の特徴を理解するとともに着装することができる。【知識・技能】
- ・和服についての理解を深め、イメージマップにまとめることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
5	1. アンケートの結果を知る。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見いだす</span>	・結果をまとめておき、生徒が生活文化についてどんな意識を持っているか知らせる。	アンケート結果
和服と洋服の違いと、和服の種類について知ろう			
10	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で取り組む</span> 2. マッピングをし、和服について聞かれたときの説明を考える。 ・和服に対するイメージをマッピングし、自分がどのくらい和服について知っているか認識する。 ・外国の人に和服について聞かれたときにどう答えるか書く。	・今の段階でよいことを伝える。  ・訪日観光客が増えていることや今夏のオリンピック開催にも触れ、日本人の伝統は何か聞かれたときにどう答えるか、想像させる。	
10	3. 和服の構成を知る。 ・教科書172ページを開き、立体構成と平面構成について知る。 ・浴衣を台の上に広げ、洋服との違いを考える。	・教科書の文章を読み、説明する。	浴衣
15	4. 和服の種類について知る。 ・着物には種類があることや着ていくときに気を付けることがあることを知る。 ・女性→振袖, 留袖, 訪問着, 浴衣など ・男性→紋付, 紬, 浴衣など	・その着物の特徴や T. P. O. について知らせる。	
10	5. 着方を知る。 ・浴衣1着に対し、腰ひも2本と帯で着付ける。	・必要な道具を見せる。	浴衣 腰ひも 帯

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が実際に着ているところを見て、着るときに気を付けるポイントを知る。</li> <li>①えり下を合わせて片手で持ち、反対の手で背中の中の腰の部分を持って、裾をくるぶしが隠れるくらいの高さまで上げる。</li> <li>②えり下を左右に分けて、それぞれ持ち、右・左の順で着る。</li> <li>③浴衣がずれないように、えりを押しさえながら、腰ひもをきつめに縛る。</li> <li>④女子はおはしよりをつくる。</li> <li>⑤おはしよりの上から、さらに腰ひもで縛る。</li> <li>⑥帯を結ぶ。</li> </ul> <p>6. 次時に2人1組になり、実際に着用体験を行うことを知らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浴衣を羽織るところから、実際にやって見せる。</li> <li>・反対の手で背中の中の腰の部分を持つとき、背骨の上にある布をつまみ、えり下と同時に引き上げる。</li> <li>・右、左の順番を間違えないように、注意喚起する。</li> <li>・えりをしっかり押しさえないと崩れるため、右手はえりをずっと押しさえる。</li> </ul>	
<p>30</p> <p>10</p>	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">和服の特徴を考えながら、浴衣を着てみよう</div> <p><b>広げ深める</b></p> <p>7. 実際に着る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人は着る役、もう一人は手伝う役でやってみる。</li> <li>・着ることができたら、交代する。</li> </ul> <p>8. 浴衣を正しくたたむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や教師の実演を参考にしながら、ポイントとなるところを知る。</li> <li>①頭の方を左に置き、おくみをおくみ付け縫い目から手前に折る。</li> <li>②左身ごろのえりとえり下を右身ごろにそろえて重ねる。</li> </ul>	<p>○和服の特徴を考えながら浴衣を着ることができる。</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】（観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の例にそって、一度やって見せる。</li> <li>・声に出しながら、どこを持つのかわかるように伝える。</li> </ul>	<p>浴衣 腰ひも 帯</p>

10	<p>③左わき線の上下を両手で持って、手前の右身ごろのわき線に重ねる。</p> <p><b>まとめあげる</b></p> <p>9. 浴衣を着た後のイメージや説明をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に行ったイメージマップに赤で、学習後に知ったことや印象を書き加える。</li> <li>・外国の人に和服について聞かれたときの説明を赤で書き加える。</li> </ul>	<p>○和服についての理解を深め、イメージマップにまとめることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(ワークシート)</p>	ワークシート
----	---	---	--------

授業実践④（臼井中学校） 資料編17ページ・資料⑤（授業実践④）

B. 衣食住の生活 題材の指導計画（10時間）

時配	主な指導内容
1	衣服のはたらき
1	T.P.O.に適した衣服
1	衣服の選び方
1	既制服の表示
1	取り扱い表示の意味
1	衣服の手入れ
1	洗剤の種類や繊維の種類
1 (本時)	洋服・和服の違い
2	浴衣の着付け

(1) 題材名 衣食住の生活

小題材 和服と洋服それぞれの良さを知り、構成の違いについて学ぼう。

(2) 目標

・和服と洋服の構成の違いについて理解することができる。【知識・技能】

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料・道具
3	<p>1. 前時の学習を振り返りながら本時の内容を確認する。</p> <p><b>見いだす</b></p> <p>和服と洋服の構成や機能の違いについて考えてみよう</p>	<p>・前時の学習事項を確認する。</p>	<p>筆記用具 ワークシート①</p>

5	<p><b>自分で取り組む</b></p> <p>2. 和服と洋服の種類について考える。        &lt;和服&gt;        着物・浴衣・甚平        &lt;洋服&gt;        Tシャツ・ズボン・スカート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体験や今までの学習を生かしながら記入できる。</li> </ul>	ワークシート① 筆記用具
4	<p>3. 和服と洋服を着用する場面と種類を考える。        個人 : 1分        話し合い : 3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導を行い、話し合いの進み具合を確認する。</li> </ul>	
1 4	<p><b>広げ深める</b></p> <p>4. 型紙を切って洋服と和服の違いについて考える。        青い用紙 : 洋服        黄色い用紙 : 和服</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>型紙（浴衣・Tシャツ）を各班に1枚ずつ配り、黒い線は残しながら、すべて切り、B4サイズの台紙に線を見ながらのりで貼る。</li> </ul> <p>☆安全面での配慮        怪我をしないように、はさみの使い方気をつけさせる。作業中の周りへの気配りも注意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切りながら、構成の違いについて考えさせる。</li> <li>話し合いなどが進んでいない場合は、ヒントを出す。        （数学の学習で聞いたことがある言葉）</li> <li>話し合ったことを元に全体で確認をする。</li> </ul>	型紙プリント はさみのり 台紙
5	<p>5. 構成の違いについて、型紙を見ながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和服は、まっすぐな部分が多い。（平面構成）</li> <li>洋服は、曲線が多い。（立体構成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和服と洋服の構成の違いや着る場面の違いなどを活かし、それぞれの特徴を考えさせる。</li> <li>着方もヒントとして考えさせる。</li> </ul>	完成品の見本
7	<p>6. 和服と洋服の特徴について考え意見をふせんに書いて4で作った台紙に貼る。        個人 : 2分        話し合い : 5分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和服は、体に合わせて着付ける。また、ひもや帯を使って着付ける。</li> <li>洋服は、人体の体に合わせて作られる。曲線を縫い合わせたり、ボタンやファスナーを使ったりして着る。動きやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導をし、記入できてない・話し合いに参加していない生徒へ声かけをする。</li> <li>全体で話し合ってきた答えについて確認する。</li> </ul>	ふせん

3	<u>まとめあげる</u> 7. 和服の良さとは何か考える。 ・落ち着く。 ・日本らしさ。 ・日本しかない特別感	・白い紙を配り、個々で書かせる。	ワークシート①
5	8. 和服についてのイメージマップを書く。	○和服と洋服の構成の違いについて理解している。【知識・技能】 (ワークシート)	ワークシート② (白紙)
4	9. 感想や授業のまとめ	・今日学んだ内容をどう活かすかも含めて、感想を書かせる。 ・次回の授業では、自分で浴衣の着付けをする授業を行うことを伝える。	ワークシート① 筆記用具

## 6. 成果と課題

### 仮説1 に対する成果

○年末年始の行事を調べることによって、「年神様を迎える前に家中を清めることから、大掃除と言われるようになったという大掃除の由来に気づいた」(資料編19ページ・資料⑦(その他の実践) 暮らしの中の年末年始を調べよう)や「地方によってもちの形が変わることや具材の由来などを知った」(資料編20ページ・資料⑧(その他の実践) 自分の家の雑煮調べ)などの感想があり、自らの日常生活の中にある日本の生活文化について多くの気づきが見られた。

○資料②と③(資料編14, 15ページ)のイメージマップからもわかるように、学習前と学習後では知識が格段に増えることが分かった。

○実践例③の授業では、和服の着用学習に生徒は意欲的に取り組み(資料④)、全員が着付けることができた。また、多くの生徒は難しい帯結びにも挑戦し、形を作ることができた。

### 仮説2 に対する成果

○日本の生活文化についての授業や調べ学習によって、「便利な世の中になってきているけど、昔ながらの伝統をしっかりと受け継ぎたいと強く思いました」(資料編21ページ・資料⑨(その他の実践) 行事食を調べよう)や「日本特有の食文化が弱まってきているとも感じた」(資料編22ページ・資料⑩(その他の実践) 行事食を調べよう)などの感想があった。日本の生活文化の良さや意義について理解するとともに、継承や実践をしようとする意欲が高まった。

### 仮説1，2に対する課題

- 新学習指導要領では「教科等の横断的学習」が求められているが、各教科での学習の時期を一致させることは難しい。そこで、各教科の履修時期を確認した上で、他教科での学習内容について簡単に触れるなど反復学習をすることで、知識の定着や意欲の継続に繋げていきたい。
- 「日本の生活文化」や「伝統の大切さ」に気づかせる題材について、A・B・Cの各内容において授業実践を行うよう試みたが、食生活や衣生活に偏ってしまいがちである。授業時数や地域の実態、教材の準備等ですべての領域で扱うのは難しく、学校差が出てしまった。第1部会では本年度から1人1台タブレットが配付され、調べ学習を行う環境も整ったので、今後は、各学校で題材開発を行ったり、授業時数や各校の実態等に応じた題材を取り上げたりしながら、更に研究を深めていきたい。

### 研究主題に対する成果と課題

家庭分野の各内容において、日本の生活文化や伝統についての題材を取り入れることで、普段当たり前のように行っている年中行事や何気なく口にしている行事食や郷土料理などを改めて意識することができた。また、伝承遊びや和服の着装などについては、家庭生活の中で教わる機会が少ないため、意識的に授業で取り上げる必要性を感じた。

本研究においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校等で従来の授業形態をとることができず研究を深めることができなかつたり、最後のまとめまで至らなかった実践があったりしたため、今後も「日本の生活文化の継承」についての学習指導に努めていきたい。